

Kofax Kapow 10.2.0

リリースノート

目次

バージョン情報.....	2
システム要求.....	2
新しい機能.....	2
Device Automation ロボット開発効率の改善.....	2
新しい Device Automation のステップと機能.....	3
セキュリティ機能.....	4
既知の問題点.....	5

本マニュアルの位置づけ

本マニュアルは Kofax 社の提供する Kofax Kapow のマニュアルを RPA テクノロジーズ株式会社が Kofax 社の了解を得て翻訳したものであり、RPA テクノロジーズ株式会社が所有する BizRobo Basic のコンテンツ扱いとなるため、二次著作権に関する全責任は RPA テクノロジーズ株式会社が負うものであり、それにより発生した一切の損害を Kofax 社に求めるものではありません。

今回のリリースについて

リリースノートには、Kofax Kapow 10.2.0 に関する最新情報が記載されています。このドキュメントには、他の Kofax Kapow のマニュアルには含まれていない情報が含まれていますので、注意深くお読みください。

バージョン情報

この Kofax Kapow 製品のバージョン番号は 10.2.0 です。バージョン番号を確認するには、次の手順を実行します。

- Design Studio で、Help > About を選択します。
- 管理コンソールで、製品名の左上隅にあるバージョン番号を探します。

システム要求

Kofax Kapow のシステム要件については、「Kapow Installation Guide」の「System Requirements」を参照してください。システム要件の最新の変更については、Kofax Web サイト www.kofax.com の技術仕様を参照してください。

新しい機能

このリリースの新機能は次のとおりです。それらは以下の個々のセクションでも言及されています。

- ロボットの Automation Device 管理
- Device Automation の式エディタ
- 再利用可能なファインダ
- Nine-Grid イメージファインダとイメージファインダの動的テキストの抽出
- フリーズツリーステップ
- パスワードストアでのプロジェクトベースの認証

Device Automation ロボット開発効率の改善

再利用可能なファインダ

Device Automation ワークフローで定義したファインダを、previous ファインダとして使用したり、ファ

インダ名を付与し、それを参照することで、ワークフロー内で繰り返しファインダを再利用できます。ファインダをコピーして貼り付けることも可能です。

式エディタ

Device Automation でワークフローを作成および編集する場合、式を使用してステップのプロパティを定義できます。Expression Editor（式エディタ）は、次の機能を提供して、式の記述と評価を支援します。

- 自動補完
- リアルタイム検証
- 式の評価
- 式のエラー位置の強調表示
- コンテキストヘルプ
- 結果ビューから値をコピーする機能

デバイスへの動的参照

Management Console ベースのデバイスマッピングを作成する代わりに、Device Automation ステップで動的参照を使用し、Device Automation ワークフロー内のすべての接続パラメータを指定できます。

ユーザーエクスペリエンスの向上

Kapow 10.2 には、Device Automation ワークフローインターフェイスに対して以下の他にも多くの改良点が含まれています。

- 複数の取り消しおよびやり直しアクションのサポート
- オートメーションワークフロービューでのズームインおよびズームアウト
- XML としてのツリーの抽出機能

新しい Device Automation のステップと機能

デバイス管理

新しいデバイスアクションステップでは、Device Automation ワークフローから、デバイスに対して以下のアクションを実行できます。

- **Suspend** : デバイスをサスペンドします。
- **Shutdown** : サービスを停止します。
- **Restart** : サービスを停止して開始します。
- **Lock Screen** : リモートデバイスの画面をロックします。

- **Restart Machine** : デバイスオートメーションサービスを実行しているコンピュータを再起動します。
- **Shutdown Machine** : Device Automation Service を実行しているコンピュータをシャットダウンします。

高度なイメージファインダ

新しい Nine-Grid イメージファインダは、柔軟な画像抽出とテキスト認識を提供します。画像内の領域を見つけて正確に選択し、画像から動的にテキストを抽出することができます。

RDP を使用してデバイスに接続する

リモートデスクトッププロトコル (RDP) 接続を使用して Automation Device に接続することができます。

フリーズツリーステップ

このステップを使用して、ワークフローのステップを実行するときに、Device Automation エディタでアプリケーションツリーのリフレッシュをフリーズします。このステップは、表、スプレッドシート、フォームなどの静的ウィンドウで繰り返し操作を実行する際にパフォーマンスを大幅に向上させるのに役立ちます。

セキュリティ機能

パスワードストアの改善

改良されたパスワードストアは、プロジェクトの情報をもち、細分化されたアクセスを提供します。ロボットの開発とテストの際に、中断や停止から本番環境を保護するために、ストアの構成を個別に設定することができます。アクセスログが追加されて、ユーザーアクティビティがパスワードストアに記録されます。

ロックスクリーン機能の CredSSP セキュリティ

Kapow は、Credential Security Support Provider プロトコル (CredSSP) を実装することにより、Device Automation 画面ロック機能のネットワークレベル認証をサポートしています。画面のロック機能は、デバイス画面がロックされている間にロボットを実行するのに役立ちます。追加された CredSSP サポートは、Open ステップで RDP 接続のネットワークレベル認証も提供します。

マルチフォレスト LDAP のサポート

Kapow は複数フォレストの LDAP 統合をサポートしており、LDAP ディレクトリへの複数の接続を指定できます。

Webkit が SSPI と GSS をサポートします

Kapow は Basic、Digest、NTLM、Negotiate セキュリティプロトコルをサポートしています。Windows システムの場合、Kapow は SSPI (Security Support Provider Interface) を使用して呼び出しアプリケーションにセキュリティサービスを提供します。Unix の場合、Kapow は、Negotiate プロトコル用の Generic Security Service API (GSS-API) ライブラリを使用し、独自の NTLM サポート実装を開発しています

ターミナルでの TLS / SSL 通信

Kapow は、統合 Stunnel を使用した TLS / SSL 通信をサポートしています

既知の問題点

この章では、Kofax Kapow 10.2.0 の使用中に発生する可能性のある問題について説明します。該当する場合、回避策が提供されます

Web ロボットの Device Automation 変数の状態は更新されません

Design Studio では、Device Automation ステップの最初の実行によって返される変数の状態がキャッシュされ、Device Automation ステップが更新されたときにキャッシュされた変数は更新されません。Device Automation の手順を変更しても、キャッシュされた変数の状態は更新されません。

回避策：ロボット全体を再実行して、Device Automation ステップから返された変数値を更新します。

デバイス上での表示スケーリングは選択範囲を置き換えることができます

VMware をリモートデバイスのホスティングに使用すると、一部のアプリケーションでテキストとアイコンの拡大縮小が選択範囲を置き換えることがあり、Device Automation を使用したロボットの予期しない動作につながります。

回避策：オートメーションデバイスの表示スケーリングを 100%に変更してください。たとえば、Windows 7 でディスプレイのスケーリングを変更するには、[コントロールパネル]> [ディスプレイ]に移動し、スケーリングファクタとして 100%を選択します。

アクセント付きの文字は Linux では入力できません

デッドキーを使ったアクセント付き文字は、Linux では入力できません。

RoboServer が RedHat 上にある場合、デバイスの自動化は機能しません

RoboServers が RedHat ベースの Linux を実行しているコンピュータでホストされている場合、

Device Automation は機能しません。

回避策：他の Linux ディストリビューションまたは Windows サーバーを使用する

アンダースコアの名前が正しく表示されない

下線付きの名前はドロップダウンリストに正しく表示されません。

回避策：名前にアンダースコアを使用しないでください。

マッピング名「local」は使用できません

Device Automation マッピング名「local」は使用できません。予約名です。

タブのタイトルは切り捨てられます

Device Automation エディタ（スペースとダッシュを含む）のタブタイトルの全長が 32 文字を超えた場合、その後の文字は切り詰められます。

Management Console が停止することがある

誤って構成された logdb データベースにより、Management Console が無期限に停止することがあります。

回避策：Management Console を実行する前に、logdb データベースの構成設定を再確認してください。

式エディタが応答しなくなることがある

式エディタは、「\$ 1」という文字の後にゼロが追加された場合、反応しなくなります。

一部のアプリケーションではタイトルが表示されません

Device Automation エディタでは、「管理者として実行」を介して開かれたアプリケーションが表示されますが、アプリケーションタイトルは表示されません。

Automation Device ビューでのオフセット

Windows10 環境の VMware で Device Automation を使用する場合、Automation Device ビューのレンダリングがオフセットされることがあります。

回避策：VirtualBox を使用するか、別の Windows バージョンで VMware を実行してください。

「Kapow」「Kapow Katalyst」「Kofax Analytics」は 米 Kofax 社の商標または登録商標です。